

# 草津市教育委員会会議録

令和6年1月定例会

(1月29日開催)

草津市教育委員会

出席委員	教育長	藤田雅也
	委員	小辻寿規
	委員	我孫子智美
	委員	森登世美
	委員	伊藤有理

事務局出席者	教育部長	増田高志
	教育部理事（学校教育担当）	菊池誠
	教育部副部長（総括）	岸本久
	教育部副部長（図書館担当）兼 図書館長	二井治美
	教育部副部長（学校教育担当）兼 学校教育課長	上原忠士
	教育総務課長	吉田克己
	教育総務課課長補佐兼係長	永田厚子

令和6年1月草津市教育委員会定例会会議 次第

令和6年1月29日 午後1時15分開会  
(草津市役所 6階 教育委員会室)

日程第1 会期の決定について

日程第2 12月定例会会議録の承認について

日程第3 教育長報告

日程第4

付議事項(2件)

議第1号 臨時代理の承認を求めることについて

議第2号 教育委員会事務の点検および評価報告書(評価対象:令和4年度)の  
議会への提出ならびに公表につき議決を求めることについて

報告事項(1件)

(1) 寄付の受け入れ報告について

開会 午後1時15分

藤田教育長

それでは、ただいまから草津市教育委員会1月定例会を開会いたします。

まず、新たな教育委員として、伊藤 有理さんをお迎えすることになりました。自己紹介をお願いできますでしょうか。

伊藤委員

只今、御紹介にあずかりました伊藤有理です。宜しくお願いいたします。

私は、保護者枠ということで教育委員に参加させていただいておりますけれども、現在は中学2年生の娘と、高校2年生の娘の母親をしております。家族は4人ですけれども、夫の仕事の関係で子どもの小さい頃は海外を転々としておりました。ヨーロッパやアジアのいろいろな国を訪問しておりましたけれども、そこで子どもたちは教育を受けました。日本人学校がある場合はその学校に通わせておりましたが、日本人学校が無い国では現地のローカルスクールやインターナショナルスクールに通わせるといった教育をしてまいりました。

なので、他の保護者に比べると少しバラエティーに富んだ保護者生活をさせていただきました。日本に帰国してからは、幼稚園の父母会の会長ですとか、PTA会長などをさせていただきました。いろいろな経験をさせていただきましたけれども、今回、教育委員となりまして、いろいろな学校に訪問させていただいたりしまして、私なりの保護者目線で感じたことをこの場でフラットにお伝え出来ればと思っております。4年間どうぞよろしくお願いいたします。

藤田教育長

ありがとうございました。

なお、今回の教育委員の交代にあたりまして、職務代理者に新たに小辻委員を指名させていただきましたので、御報告させていただきます。

—————日程第1—————

藤田教育長

日程第1、「会期の決定について」であります。本日1日限りといたしたいと思っておりますが、御異議はございませんか。

各委員

— 異議なし —

藤田教育長

異議がないようでございますので、1月定例会は本日1日限り  
といたします。

—————日程第2—————

藤田教育長

次に、日程第2、「12月定例会会議録の承認について」であり  
ますが、あらかじめ事務局から配布をされ、熟読されていると  
思いますが、御異議はございませんか。

各委員

— 異議なし —

藤田教育長

異議がないようですので、12月定例会の会議録は承認された  
ものと認めます。

—————日程第3—————

藤田教育長

次に、日程第3、「教育長報告」に移ります。

それでは、私の方から諸般の報告をさせていただきたいと思  
います。

はじめに、元日に発生しました能登半島地震により多くの尊  
い命が亡くなられ、また多くの方々が今も避難をされております。  
建物の崩壊やライフラインなど大規模な被害が発生しております  
ことに心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。1日も早い復  
旧、復興を願うばかりでございます。

それでははじめに、令和6年の初めての校長会が1月5日に開  
催されましたので、年頭訓示を行いましたのでその内容につ  
いてまず御報告させていただきます。

最近の教育に関わる話題の中で「対話」という言葉が様々な  
ところによく出て参ります。

滋賀県教育委員会発刊の「教育しが」令和6年1月号には「読  
み解く力を高め、わかった、できたに繋がる授業づくりを進めて  
います」という記事が掲載されており、その中では「学級の仲間  
と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりするこ

とができていますか」という調査項目がその評価の指標になっております。

また、ある教育情報誌には、「対話を通した学校づくり」が各地で広がり始めている。大人同士、子ども同士、そして子どもと大人の対話が欠かせない。多くの自治体で対話を通した学校づくりの重要性に気づき始めた。こうした記事がありました。

そして、昨年12月文科省が公表しております「義務教育に関する意識に係る調査」結果によりますと、「学校で勉強する上で、こうだったらいいなと思うこと」の問いかけに「みんなで話し合っただけを考えを深めたい」と答えた小学生が65.7%でトップ、中学生では51.5%で第2位でした。このように対話についての重要性や子どもたちの願いを管理職としてしっかり受けとめていただくとともに、これを校内の全ての教師に浸透させて、「対話を大切にしたい学校づくり、学級づくり」、そして「授業改善」のさらなる充実に取り組んでいただくようお願いをいたしました。

そして、令和6年度から全ての小中学校で「スクールESDくさつプロジェクト」がスタートいたしますが、この取組は、いわば日本の学校教育の弱みとされている「全ての子どもたちが同じことを同じように出来るようになる」ことを導く過度な同調圧力を改めて、子どもの自立した学習の確立により、自己肯定感や、自己有用感、そして自ら未来を切り開く力や意識を育成することに繋がるものだと考えております。

今年、これらのことに挑戦をしてもらい、令和6年が草津の教育にとって、勢いのある年になるよう大いに期待をするというような訓示をさせていただいたところでございます。

次に、草津市にもアメリカ大リーグの大谷翔平選手からのグローブが届きました。これに併せて市内有志企業5社の皆様から子どもたちの体力向上に役立ててもらおうと「ティーボールセット」を全ての小学校に寄贈いただきました。

1月9日に草津小学校で大谷選手のグローブとティーボールセットの贈呈式がございましたので、私も出席をいたしました。

はじめに校長先生からは全校児童に向けて大谷選手のこれまでの取組の紹介があり、その中で2つのことを学んでほしいと伝えられました。一つは、「大変だな、面倒くさいな、やる気が出ないな」と思ったときは、大谷選手を思い出して少し我慢をして努

力を続けてみることに。もう一つは、大谷選手のように相手を思いやる優しい行動が出来るかっこいい人になることです。この二つを校長先生は「二刀流」として頑張ってくださいというふうに見童に呼びかけられました。

最近、子どもたちの体力低下が問題になっています。私が子どもの頃は遊びと言えば野球でしたが、今ではボール遊びができる公園や空き地が減り、子どもたちの遊びも様変わりをしてきております。今回のことを契機に校庭で大谷選手からいただいたグローブを使って、元気に野球をする子どもたちの姿を大変楽しみにしています。

次は、草津市立図書館40周年記念事業のひとつとして、主に小中学校へ訪問するために整備をいたしました、移動図書館「あおばな号」が1月15日から運行を開始いたしました。トップバッターの矢倉小学校へ様子を見に行っていました。これは、子どもが本を読まない、いわゆる不読率が高まってきたということから、できるだけ本に触れあう機会を増やし多くの子どもたちが読書によって、想像力や読解力を高めたり、本を通して様々な考えに出会ったりすることを目的としています。

矢倉小学校では、昼休みの25分間が貸し出し時間帯でしたが、ベルが鳴ると同時に多くの子どもたちが集まってきました。

この日のために図書館司書が選書した約1,000冊の児童書に目を輝かせて探し、1人1冊ずつでしたが158人の児童に貸し出しをしました。

そして、この1月から市立図書館や学校図書館、そして移動図書館を利用するとポイントがもらえ、ポイントを一定集めると抽選で商品が獲得できる「子ども読書ポイント」事業をスタートいたしました。これからも、他の小学校へも訪問していきませんが、様々な仕掛けによって子どもたちの読書環境の充実を図ってまいります。

次に、松原中学校では、今年度、「答えのない問いへの挑戦」を合言葉に「松原未来学習」と「松原ローカル学習」の二本柱でスクールESDの取組を進めています。その一環として、立命館大学の学生団体である「BohNo (ポーノ)」の協力を得て、世界にある「食品ロスの問題」を自分事として捉え、日頃食べている学校給食の残食にも注目して、その食品ロスを解決する具体的な授業が行われました。

私が訪れた1年2組の教室にはB o h N o（ポーノ）の8名のメンバーが生徒のサポートに入っていて、「食品ロスが増えるとどうなるかな」、「社会や環境への影響は」などについて話し合いが行われました。ブレインストーミング方式の班ごとの話し合いでは、食品ロス問題とごみ問題、地球温暖化、人口問題、健康被害など様々な視点から生徒間で話し合いが行われていました。

今回とられたブレインストーミング方式という思考ツールは、複数メンバーが自由に意見を出し合って、そこから新たな考えや発想、アイデアを生む手法です。本市ではこのような思考ツールを活用して、児童生徒が主体的に学習に取り組むアクティブラーニングによる授業改善を市全体で進めております。また仲間との対話から様々な視点や考え方を知ることによって、自分の意見を深めたり、他者意見を尊重するなど、これからの社会に求められる多様性や包摂性などの基礎となる力を育むことにも繋がっています。

松原中学校では、地球規模で物事を考える視点を持ち、このことを身近な生活の中に置き換えて、自らが出来ることを考え行動する、そのような力を育む教育活動を全校で着実に進めています。これからの松原中学校の取組を大いに期待しているところでございます。

以上、私からの報告は終わらせていただきます。

それでは委員の皆様の方から、教育全般に関する事項で、御意見・御感想などを賜りたいと思います。

小辻委員

今回、職務代理者に仰せつかりまして、身が引き締まる思いでございます。よろしくお願いいたします。

今回、体調不良により二十歳のつどいに出席できず申し訳ございませんでした。その一方で、草津に住まれている二十歳の方とお話する機会がありました。その中で二十歳のつどいを迎えることが出来て良かったですとか、友達と再会することが出来て凄く良い機会でしたと話しておられましたので、今後も二十歳のつどいを継続していただきたいです。

今回、私は参加できませんでしたけれども、キッズシネマ塾で「わたしたちの花あおばな」の上映会があったとお伺いしております、またY o u T u b e等で公開されましたら、拝見したい



と思っています。中島先生に貢献いただいて草津の子どもたちの中に生きづいて、だからこそ素敵な作品が出来ているのだと思います。今後もこの文化を継承していただきたいと思っております。

文化継承というところで、京都新聞で御当地マンホールの記事がありまして、草津旧街道のマンホールが非常に好きだとマンホールのファンの方が書かれておられたのですが、地域のことに目を向けるということが非常に重要だということ子どもたちや地域の方にも伝えていただきたいと思います。学生たちとも旧街道のマップを今作成させていただいておりますが、草津の魅力をいろいろな視点から見ていける人が増えてくると、草津そのものの良さがより多方面に展開できると思っておりますので、今後のPRのあり方を一緒に考えていきたいなと思いました。

大谷選手を含め地域の方々が様々なものを寄付していただいております。地域の方々の取組はなかなか報道されることはないのですが、地域の方々がみんなにいろいろなメッセージを込めて寄付いただいているという、このありがたみを改めて実感させていただきました。

子どもたちも、もちろん大人たちもそうですが、いろいろと目立つニュースだけじゃなくて、様々な目立たないニュースを含めて触れていただいて、どの様な方々が草津のことを思っているかを感じていただけると非常にありがたいなと思います。

その上で地震の話といたしましては、湖南広域消防局が草津第二小学校で防災教室をされたニュースを拝見しました。

立命館大学も能登の小学校の卒業式をお手伝い出来ればと、考えたりしているのですけれども、一緒に子どもたちの思いとかもいろいろな形で交流できるような場というか、今回草津は幸いにも大きな被害はありませんでしたが、皆で何か交流出来るような場であるとか、皆で何かあった時に助け合いの出来るような場ですとか、草津の地域力を生かしていけるような新たな取組が出来ればありがたいと思います。

今年で私も任期が終わります。残りの10か月いろいろと頑張っていきたいです。よろしく願いいたします。

我孫子委員

1月8日に、20歳のつどいに参加をさせていただきました。今年の実行委員は、はつらつとした方が多かった印象でありまし

て、式自体も私は午前の部に参加させていただきましたが緊張感のある中でも和やかでとても良い式でした。子どもも大人も元気ある草津になって行って欲しいなと感じました。

1月23日に、レッツエンジョイスports授業で12月の山田小学校に続いて常盤小学校に訪問させていただきました。こちらでも講話と簡単な体育遊びの授業をさせていただきました。今回すごく感じたのは、体育の授業の時に皆がやっていると自然と皆が応援する姿を見て、私が、「皆やっている時応援してあげてね」という掛け声は何もしてないのですが、そういったことが自然と沸き起こる学校だったので、学校生活を通して仲間を思いやる気持ち、助け合いの気持ちが凄く育まれているのだな、素敵だなと感じさせていただきました。

1月25日にスクールESDくさつプロジェクトのモデル校の実践報告会に参加させていただきました。

その先生方の発表を聞いて、やっぱり体験するって凄く大事なんだなということを感じました。自分たちで実際にやってみたりとか、話を聞いて感じることや興味を持つということにつながって、大人が課題を与えるのではなくて自分たちで課題を見つけられることが出来るのが、自然に発生しているということが聞けたので、またそこから取り組んでいくことで、達成感、地域に貢献していく気持ちが芽生えている。ESDの学びのサイクルの提案から行動、発信までのサイクルが本当に学びが深くなるのだなと感じました。先生方の御苦勞も含めてお聞きすることが出来ましたが、協力者をどうやって集めていって、それを次の年にどうやってつなげていくか、今年度やってきたことをどうやってつなげて行くかということがどこの学校も課題として挙げられていましたので、ここはESD担当の先生方にサポートいただく中で、来年度どこの学校もESD教育がうまく進むことを願っております。ありがとうございました。

森委員

先月の12月22日に教育研究所で行われました令和5年度草津市プログラミングコンテストの表彰式および発表会に参加させていただきました。

スクラッチを使ったプログラミングで、季節献立ルーレットを作った小学生はお母さんから今日何食べたいと聞かれるので献立がさっと出てくるルーレットを作ろうと思ったと答えていまし

た。また中学生は実際にドローンを使って防護服なしで蜂を遠隔退治するプログラミングで、その場でドローンを実際に動かして回転させて、遠隔退治をする様子を説明してくれました。こんな物があったら便利だろうなあ、こんな物を作りたいなど、コンピューターに指示をしているいろいろ試行錯誤しながら自分の力で出来た時には、達成感を感じるのだらうと思いました。

プレゼン発表では、皆さん堂々としていて難しかったところ、もっとこうしていきたいところを自分の言葉でしっかりと説明されている姿も素晴らしいなと感じました。

1月8日、20歳のつどいの午後の部に参加させていただきました。

オープニングセレモニーでは、懐かしい映像に歓声が上がり会場が盛り上がりました。式典では、実行委員長の「20歳を迎えて祝われる側ですけれども僕は支えられた人に感謝する日だと思っている」という言葉や、代表の方のスピーチで自分の夢や目標を具体的に述べておられたのが印象でした。周りの方への感謝を忘れずに夢や目標に挑戦して行って欲しいなと思います。

1月25日、私もスクールESDくさつプロジェクトモデル校実践報告会に参加させていただきました。

モデル校3校共に共通していることは子どもたちの声として、地域のために役に立ちたい、地域のことをもっと知りたい、地域の役に立っているからこの学習は好き、地域の課題を自分ごととして達成感を味わいながらもっと地域の為に貢献したいという子どもの学ぶ意欲の向上でした。

後半のパネルディスカッションでスクールESDを成功させるポイントとして、校内体制やリーダーの役割、成果等についてパネリストの方が話されました。その中でESDの取組は地域を元気にするとか、身につけた学力を社会の為に使うなどキーワードとなる大切な言葉が聞けました。仲間と一緒に同じ目標に向かって努力し、困難を乗り越えた経験は子どもたちにとって生きる上で大きな自信となって力となります。松原中の学生の声に「世界の役に立つなんて不可能だと思っていたけれど、自分たちの力でこれだけの成果が出せたことに感動した」服プロジェクトで難民に服を送る活動をした子の声でしたけれども、令和6年度、全ての小中学校で実施され、行動する子どもたちの姿が見られることを期待したいと思います。以上です。

伊藤委員

私はまだ活動報告が出来ませんので、今思っている教育に関する事と、今のお話を聞いて感じたこととお話させていただきたいと思います。

大谷翔平さんのグローブが草津小学校に来た時に、校長先生から我慢をして持続する事と、相手を思いやるという二刀流でというお話があったと思いますが、勿論そのことはとても大切であると思いますけれども、その手前にある我慢したけれども無理なことは無理だと言っていいんだという場所作りということと、相手を思いやることも当然大切であるけれどもその前にもっと大切にしないといけないのは、自分が自分であることだと感じました。物事はすべて両面がありますから、両方から見て捉えないといけなると日々感じています。多様性という言葉が何度も出てきていますけれども、昨年、多様性は何かという研修に少し関わらせてもらったことがあります、その時に草津市の先生方に多様性というゲームを交えて本来の多様性というのはどういうことなんでしょうかと考えていただき経緯があります。その時に私が感じたことは、口で多様性というのはとても簡単なんです。表面だけのすごくバラエティに富んだものを認めるっていうのも勿論多様性になるのですが、本当の多様性を体感しようと思えば、多様性という言葉の先にある「存在すること」が当たり前であるという世界に行かないとなりませんので、自己紹介する時に、私は人間ですという自己紹介はしないと同じように、多様性というものを意識して多様性を追いかけてしまっている状態になってしまっていて、実際の多様性とは少し距離がある状態だなということを感じていました。ゲームを通していろいろな動物に自分も見立ててもらって、それをわざと不自由な形にして相手に伝えるという技法を使いましたけれども、例えばにわとりですとかパンダとか同じ動物を自分に当てはめた方でも、パンダの取り方が人それぞれ違ったり、にわとりを感じている印象がそれぞれ違ったりとかそういうバラエティに同じ表面では同じに見えていても奥で思っていることが違うということを含めて多様性であるということを感じていただけたのではないかなと思っています。今後、草津市の教育委員会がめざしていくところは、多様性のその先へ、ではないんですけれども、多様性というのが先生の中でしっかり型にはめられておられて、その先をめざしていける姿が私

たちがめざしている所ではないかなと思います。先生たちも、すごく固定概念に苦しんでおられるというか、先生だからこうじゃなきゃいけないとか、先生だから正しい答えを言わないといけないというところに、苦しんでおられるのではないのかなと懸念もあります。

先ほど体験というお話がありましたけれども、ただ体験するだけで私はいいと思っけていまして、そこにそれが成功したとか成功しなかったとういのは、その人がその物事をどう見ているかだけの話なので、その人が成功だと思えば周りの人が失敗だと思っけても成功になりますし、その先の成功も失敗ももはや無いのではないかなと思っけています。子どもたちにはたくさんの体験をしてもらいたいと思っけておりますし、先生も先生でありながらたくさん失敗して下さって、失敗してもいいんだよということ子どもに伝えてもらえるような先生方が増えればいいなと思っけております。

藤田教育長

それでは「教育長報告」につきましては、これで終わらせていただきます。

—————日程第4—————

藤田教育長

では次に日程第4、付議事項に移ります。

議第1号「臨時代理の承認につき議決を求めることについて」は人事に関することであり、会議を公開しないこととすべきであると考えます。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条7項では、教育委員会の会議は公開する。ただし、人事に関する事件その他の事件について、教育長又は委員の発議により出席者の3分の2以上の多数で議決したときは、これを公開しないことができる。」となっておりますので、この規定に基づきお諮りいたします。

議第1号を公開しないこととすることについて、御異議はございませんか。

各委員

— 異議なし —

藤田教育長

異議なしと認めます。

教育総務課長

よって、議第1号を、公開しないことといたします。

この議案につきましては、報告事項の終了後に審議を行うことといたします。

次に、議第2号「教育委員会事務の点検および評価報告書の議会への提出ならびに公表につき議決を求めることについて」について審議いたします。

事務局の説明を求めます。

議第2号「委員会事務の点検および評価報告書（各評価対象は4年度）の議会への提出ならびに公表につき議決を求めることについて」総務課の吉田より御説明申し上げます。

報告書につきましては、議案書の9ページから御覧いただきたいと思っております。11ページから13ページ中ほどまでにつきましては、点検・評価制度の趣旨・概要を記載しておりますが、10月の定例教育委員会で協議案件として議決いただいておりますので、ここでの御説明は割愛させていただきます。

議案書の13ページの中ほど、「5.草津市教育委員会事務外部評価委員会」以降に、この度の点検評価の結果をまとめておりますので、こちらから御説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

外部評価委員会につきましては、昨年の11月24日に開催いたしましたして、①に記載しております3名の評価委員の皆様から御意見をいただいたところでございます。

ページの下段、③主な意見・評価にございますとおり、総評といたしまして、「草津市教育委員会がこれまで困難な課題にひとつひとつ丁寧に対応し、教育の充実に向けて取り組んできたことについて高く評価したい」、また「成果指標の実績値を含めた客観的なデータで達成度を評価するとともに、学校現場や窓口で聞く市民の声も大切にしてもらいたい。また、実績値に一喜一憂するのではなく、施策の基本方向等を踏まえ、事業に取り組んでいただきたい」という御意見をいただきました。

次の14ページから15ページには基本項目1から基本項目9までの主な意見を抜粋して掲載しております。全体を通しまして、概ね良い評価をいただきながら、今後に向けた意見や助言をいただいたところでございます。

各基本項目の詳細につきましては、24ページ以降の基本項目

ごとのシートに、「外部評価委員会での主な意見」の欄を設け、掲載しております。例えば24ページを御覧いただきますと、上段の方に基本項目1「豊かな心と健やかな体の育成」でございますが、24ページから26ページに基本項目の概要、成果指標、達成度評価、施策に含まれる主要事業の一覧に成果達成度の記載がございまして、26ページの最下段に「外部評価委員会での主な意見」をまとめているという構成になってございます。

今後の予定といたしましては、本日議決をいただきましたら、市議会に報告するとともに、市のホームページにより市民の皆様に公表してまいりたいと考えております。

以上、まことに簡単ではございますけれども御説明とさせていただきます。よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

藤田教育長

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問ございました各委員の皆様からお願いをいたします。

小辻委員

13ページの総評ですけども、成果指標の実績値を含めたところですが、その中で、「学校現場や窓口に聞く市民の声を大切にしてもらいたい」という話が出ていますが、実際にどの様な話であるとか、そういったところで何か評価を付け加えて欲しいとかそんな意見があったんでしょうか。それとも特に無くて、この文言通りという見方でいいのでしょうか。

教育総務課長

基本的に外部評価の成果指標については、データ値から客観評価をする手法が自己評価、外部評価の基本となっております。ここにも書いてございます通りそういうデータの数値もあるだろうけれども、そういった直接的な市民の声とか、学校現場で聞く声ということも大切にもらうという趣旨なのですが、特別こういう事例があってというわけではなくて、一般論的にデータと実際の声も生かしていただきたいというような御意見でございます。

小辻委員

特に指標とかが反映できなくなるとかではなくて、ただ思いとしてということですね。分かりました。

我孫子委員

比較的外部の評価委員の方の意見というか、取り組んできたこ

とに高く評価いただいているので、いいのかなと思っています。基本的にすべてが全部〇となっているので、今後それを超えるところをどうつなげていくのかを考えていけないかなと思います。

藤田教育長

来年度は、草津市の教育振興基本計画の最終年度で改定時期ではありますので、こういった評価を参考にしながら、次に進めていくことでもありますので、また、その段階でもいろいろな御意見を賜ればなと思っています。

森委員

全部〇がついている、例えば図書館の満足度のところで、目標値が59.0点で、実績値が72.4でこれは凄い成果が上がっているんじゃないかなとか、そういう見方で見させてもらったんですけど、特にこれは成果が出てきたなとか、或いはここがまいち成果が出てないなっていうのが、どういうふうに教育委員会としてとらえておられるのかなと、数字だけで見るとこういうのが出ているのかなって見てしまうんですけども。何かそういうふうな実際のところ、ここは成果が出て、ここはもう一つだったなとなった場合はどういうふうに教育委員会としてとらえておられるのかお聞きしたい。

藤田教育長

この事業の評価が◎、○、△ですから、そういう意味でたしかにおっしゃるように、もう少し何か段階的なものの評価があってもわかりやすいのかなというような御意見であるのかなと思いますけど。今の全般的なことで、答弁できますか。

教育総務課長

おっしゃっていただいたように成果の達成度が3段階になりますので、非常に大雑把な区分けになっております。

事業においては、その達成度が充分クリアしているものもあれば、なかなか目標値ぎりぎりというように幅もあるかと思うんですけども、例えばですけども、議案書14ページの基本項目3、「教育委員の指導力の向上」のところの、2つ目で、校内の業務改善や効率化が必ずしもうまく進んでいない実態も垣間見えるため、改善の進んでいる学校の事例を学校間で共有するなどの取組に努めていただきたい。という御意見がありました。こちらにつきましては、議案書の30ページを御覧いただきたいと思い



ます。30ページの中段辺りの先ほどの成果指標②に会議時間の短縮、行事の精選や実施方法の見直し、校務ICT化等を推進し、積極的に業務の改善や効率化に取り組んでいる平均値でございます。

令和3年から令和4年度にかけてまして実績値が3.7から3.4ということで、平均値でございますので、各学校において上下はあるかと思うんですけども、その辺を捉えまして委員の方から学校間によって、うまく進んでいるところと、そうでないところもあるのではないかとご指摘がありましたので、評価にありますとおり、改善の進んでいる学校の事例を共有、そして取組を進めていただきたいというようなことございましたので、やはり実績で数値として表れる奥には20校それぞれの進捗もあるのかなというところで、こういったところを真摯に受け止めて、好事例を生かしていくやり方になるのかと考えております。

伊藤委員

おっしゃってくださったように、評価が3段階であるっていうのは私も気になりまして、外部の方の評価を読んでいると厳しい指摘をされている印象がありました。とは言え、達していないかと言えは達していないわけではないので、表面的な評価でいえば概ね達している評価になっているのではないかと漠然と細かくは見えていないですがそういった印象がありましたので、今後やっていく課題といたしましては、もう少し細かく透明化していく必要があるのではないかなと思います。これぐらいだと良いだろうという所で妥協してしまったら、おりこうさんな結果で終わってしまうのですけれども、先程言いましたように失敗してもいいという考えで行けば、どんどん粗を出して、どんどん改善していった方が結果的には良い方法が生まれると思いますので、悪い結果を悪いと受け止めるのではなくて悪い結果が出た時こそ改善の余地があるので、やれることはたくさんあるというふうに物事を見て行けば、もう少し課題が出来るのではないかなと思います。

藤田教育長

御意見ありがとうございました。

この件については、ここで御異議がなければ、今後、議会の方に報告いたします。

本議案につきまして御異議はございませんか。

各委員

— 異議なし —

藤田教育長

御異議がないようですので、議第2号は、原案通り可決をされたものと認めます。

—————日程第5—————

藤田教育長

次に、日程第5、報告事項に移ります。  
事務局から説明をもとめます。

教育総務課長

報告事項1「寄付受け入れ報告について」教育総務課の吉田が御説明申し上げます。

報告書は、51ページでございます。

詳細につきましては一覧表記載のとおりでございますが、寄付品目に記載の児童・生徒用図書を、公益財団法人河本文教福祉振興会様から、ティーボールセットを、株式会社高岡屋様、株式会社津田工務店滋賀様、御菓子司栄進堂様、吉田造園石材様、山田正人税理士事務所様から、絵本を、特定非営利活動法人草津の未来を建設する市内業者会様から寄付いただきました。

寄付受け入れ報告については以上でございます。

藤田教育長

ただいまの「報告事項」につきまして、御質問がありましたらお願いしたいと思います。

それでは、「報告事項」につきましては、以上で終わらせていただきます。

それでは以上をもちまして、本日の議事は終了となりますが、他にございますでしょうか。

それでは、これをもちまして1月定例会を終わらせていただきます。

閉会 午後2時10分